



知床科学委員会 しんぶん

知床世界自然遺産地域

科学委員会

NO. 14



「知床で今何が起きているの!？」「どんな調査が行われているの!？」など、タイムリーな情報をお伝えします。

必見!
TOPIC

長期モニタリングにより分かったこと ～特定外来生物の侵入状況～

わたしたちは、世界自然遺産登録時から自然環境の状態の変化を調査しています。その結果、知床のかなり奥地（知床岬）にまで特定外来生物のアライグマが侵入していることが分かりました。アライグマは木登りが得意なため、絶滅危惧種に選定されたシマフクロウのヒナや卵を襲う恐れがあります。

※特定外来生物とは、外来生物の内、特に生態系や人に被害を及ぼす生物として外来生物法で指定されたものです。



2016年10月
知床岬に設置された自動撮影カメラ
で撮影されたアライグマ

【確認後の対応】

自動撮影カメラを使用して
アライグマの侵入状況調査を行っています。

これまでに知床（遺産地域内外）で確認された特定外来生物



アライグマ



アメリカミンク



セイヨウオオ
マルハナバチ



オオハンゴンソウ

今回の会議

科学委員会は、毎年、年2回開催されています。
平成30年度第1回目の会議は、8月24日（金）羅臼町商工会館で開催されました



ユネスコ世界遺産委員会からの宿題

2005年7月に開催の世界遺産委員会で、知床は世界自然遺産に登録されました。知床は、日本ではじめて海域を含んだ自然遺産です。そのため、世界遺産委員会からは、海洋生態系の保全と漁業との共存のための計画作りやサケ科魚類の自然産卵の確保を求められてきました。

2017年の第41回世界遺産委員会で、トドの保護管理やサケ科魚類が遡上するルシャ川のダム改良など5つの宿題が出されました。

今回の会議では、各宿題に対しての回答内容について話し合いました。

トドの管理をするためには、まず私たちがトドについて知らないといけないよね。



ドローンで撮影したトドの群れ

トドの管理のためにどんな調査をしているの？

トドは冬の間、エサが豊富な根室海峡にやってきます。トドが集中してやってくる羅臼町から標津町北部の沿岸では、陸上の6つの定点から目視によるトドの個体数のカウントを毎年行い、最低何頭来ているのかを調べて増減傾向を把握してきました。また、トドの胃内容物の調査^{※1}や、飛行機を使った沿岸の広域調査^{※2}等も行われてきました。

また一部のトドには出生地のロシアで焼き印の標識が付けられており、1文字目を読むと、どの島で生まれたのか判別できます。最近ドローンを使用した上空からの撮影により、標識個体を効率よく確認できるようになりました。これらの調査により、根室海峡で越冬するトドの多くは、千島列島生まれであることが分かりました。



焼き印で標識されたトド



ドローンで調査する様子

※1：北海道立総合研究機構稚内水産試験場が実施
※2：水産研究・教育機構北海道区水産研究所が実施

会議やバックナンバーの内容を知りたい方はコチラ
知床データセンター
<http://dc.shiretoko-whc.com/>

他にも知床で行われている様々な
研究データをご覧いただけます！



■問合せ先■

環境省釧路自然環境事務所
〒085-8639

北海道釧路市幸町 10-3 釧路地方合同庁舎 4階
TEL 0154-32-7500 FAX 0154-32-7575

- ①各ワーキングでの話し合い結果について
- ②第41回世界遺産委員会の決議への対応
- ③長期モニタリング計画の見直しについて